

第12期(2017年3月期)決算説明会

2017年5月31日



アジアパイルホールディングス株式会社



目次

I. 決算のポイント、主なトピックス	2
II. マーケットの動向	12
III. 第12期(2017年3月期)決算概要(連結)	17
IV. 経営概況	23



I . 決算のポイント、主なトピックス

I-1 決算のポイント

■ 2017年3月期業績の概況

売上高、利益ともに当初の公表予想を上回りました。

前期対比でも増収・増益となりました。

売上高は7期連続の増収となりました。

■ 国内、海外の状況

国内業績は、コンクリートパイルのマーケット全体が減少する中で、売上高は前期対比増収となりました。利益面では、施工コストの上昇により、減益となりました。

海外業績は、PV社の業績が好調に推移したことから、増収・増益となり、連結業績に寄与しました。

■ 部門別売上高

鋼管杭部門が公共工事の減少の影響により減収となりましたが、コンクリートパイル部門、場所打ち部門ともに増収となりました。

I-2 主なトピックス

国内生産

■ 九州地区の生産体制の再構築

2016年4月 福岡工場の本格稼働

2017年1月 JPプロダクツ鹿児島(株)を吸収合併し、ジャパンパイル(株)の
鹿児島工場とすることを発表(合併期日 4月1日)

3月 佐賀工場を閉鎖し、福岡工場等に集約

■ 高強度123N杭の生産体制整備

I-3 主なトピックス

国内施工

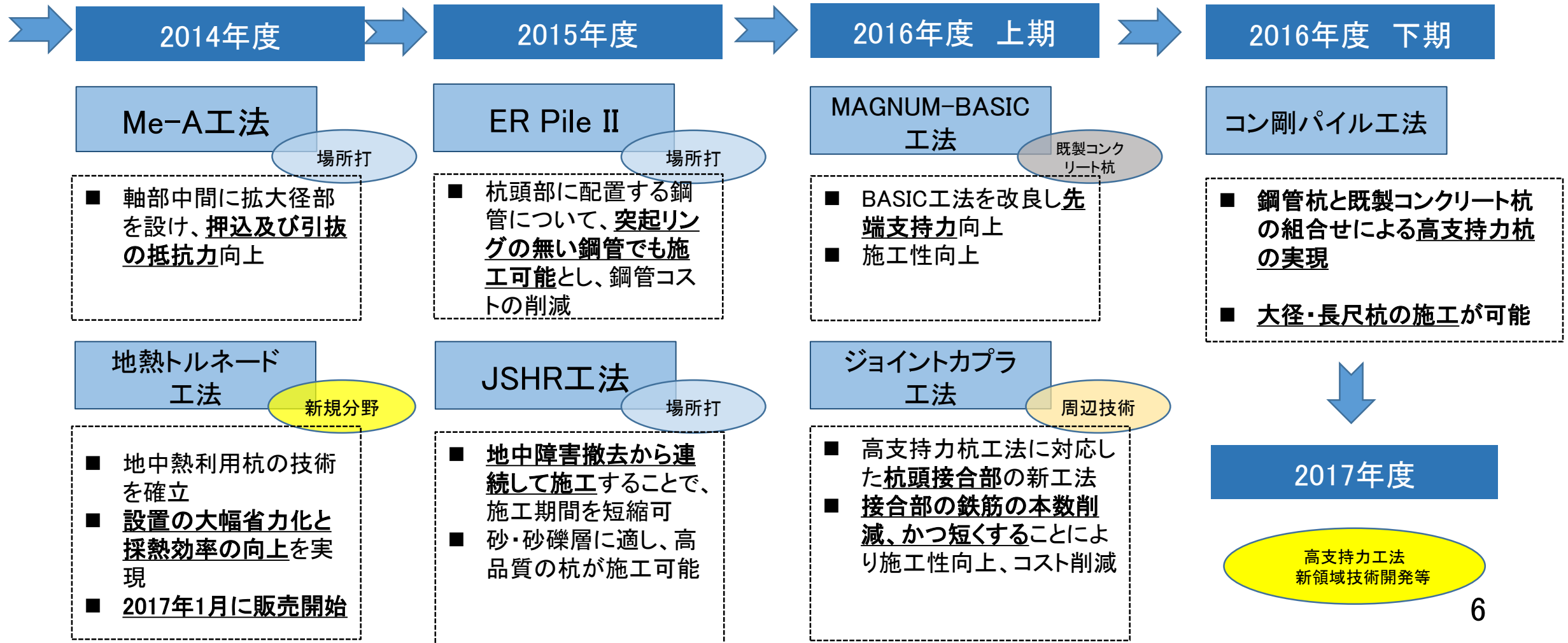
- 工事管理厳格化への対応
 - 人材育成、人員増強
 - ICTを活用した効率的な施工管理への取り組み

技術開発

- 新工法の継続的開発
 - 2016年 9月 ジョイントカプラ工法の評定取得
 - 10月 MAGNUM-BASIC工法の大臣認定取得
 - 2017年 1月 地熱トルネード工法の販売開始
 - 3月 コン剛パイル工法の評定取得

技術開発①

■ 大型工事への対応、高支持力実現のための多面的な技術開発を継続しています



技術開発-②

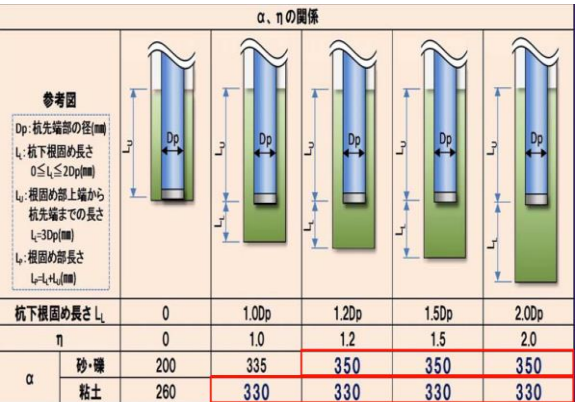
Me-A工法



ER Pile II



MAGNUM-BASIC工法



コン剛パイル工法



地熱トルネード工法



JSHR工法



ジョイントカプラ工法



I-4 主なトピックス

海外展開

■ ベトナム

2016年 4月 ハイズン工場改修完了

7月 ロンアン工場の第二ライン新設起工、本年稼働予定

7月 カントー工場改修完了

9月 PV社あて出資比率を52.4%から62.4%へ引き上げ

2017年 3月 建物外壁パネル、シートパイル等の二次製品の製造、販売、施工の新会社(PVIC社)の設立

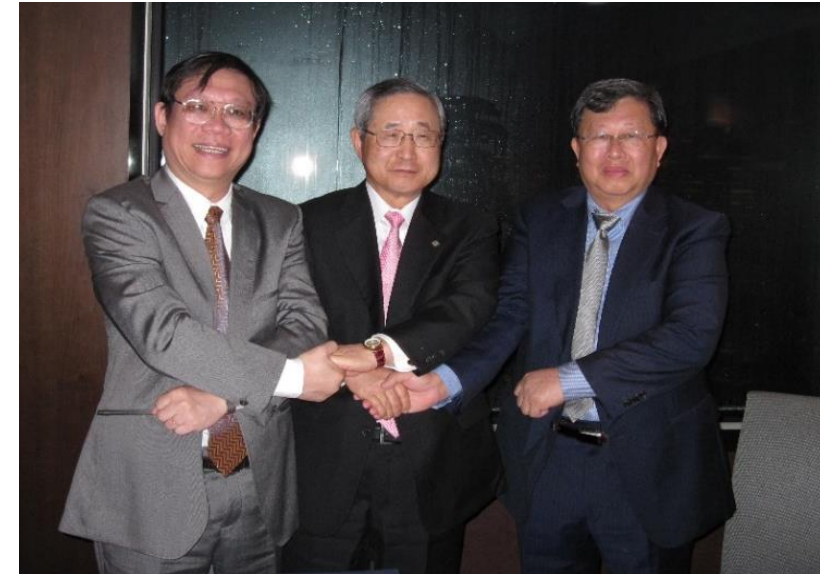
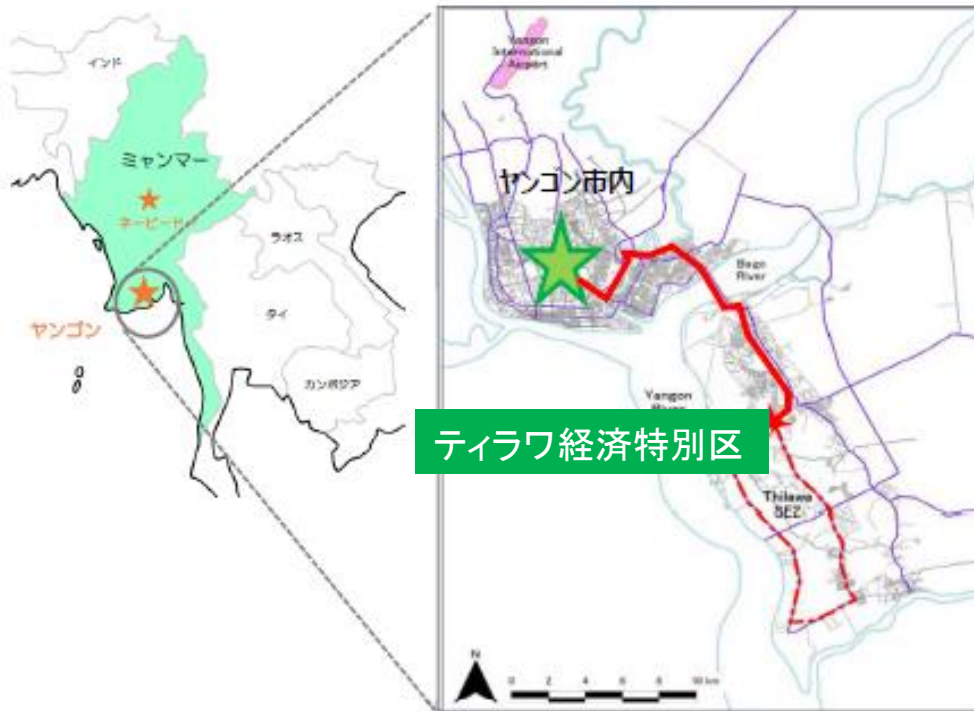
■ ミャンマー

2016年 8月 VJP社がティラワ工場建設許可取得、建設着工 本年夏稼働予定

ベトナム

(2017年4月 ロンアン工場第二ライン建設現場の様子)





(パートナー各社の代表者)

- 当社は、Myanmar V-Pile社、Phan Vu Investment社と共同出資でコンクリートパイル製造・販売・施工会社としてVJP社を設立済(2015年5月)。
- 2016年8月に工場建設認可取得、建設着工。本年夏稼働予定。
- 年産10万トンを目指し稼働予定。

ミャンマー

(2017年4月 工場建設現場の様子)



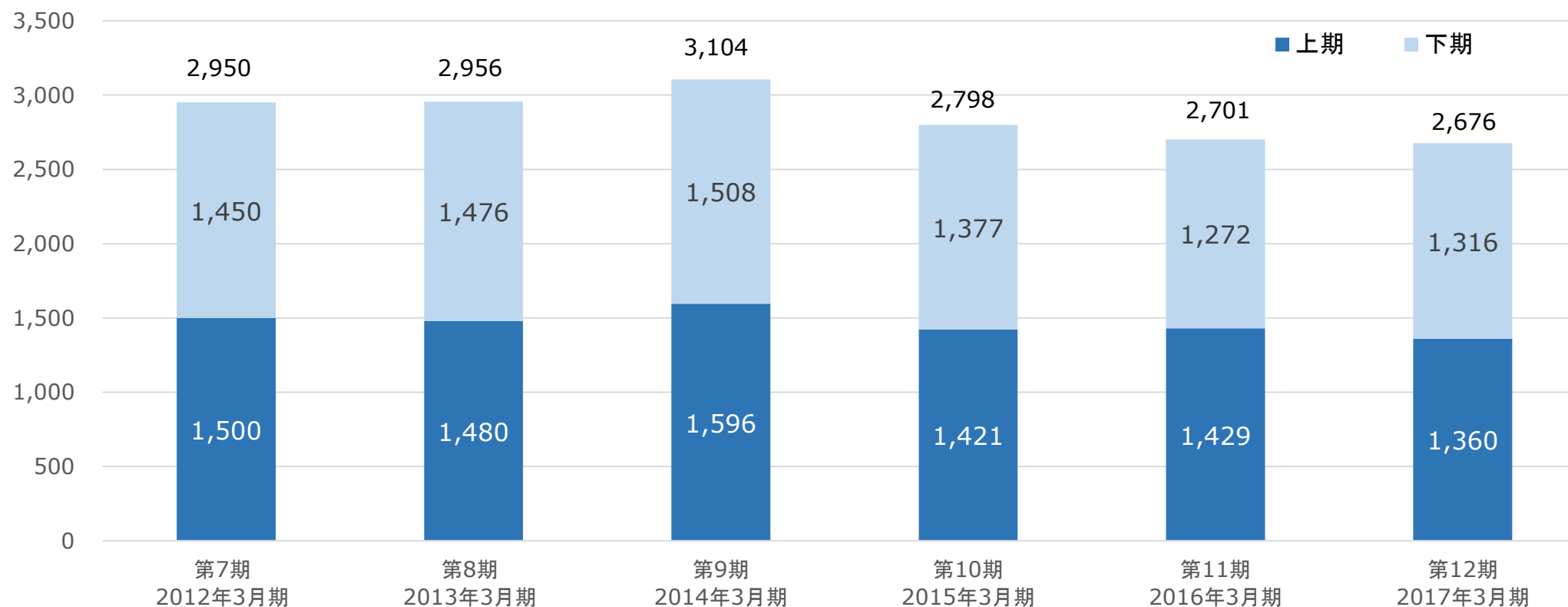


Ⅱ. マーケットの動向

Ⅱ-1 全国コンクリートパイロ出荷量

(単位：千トン)

(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料



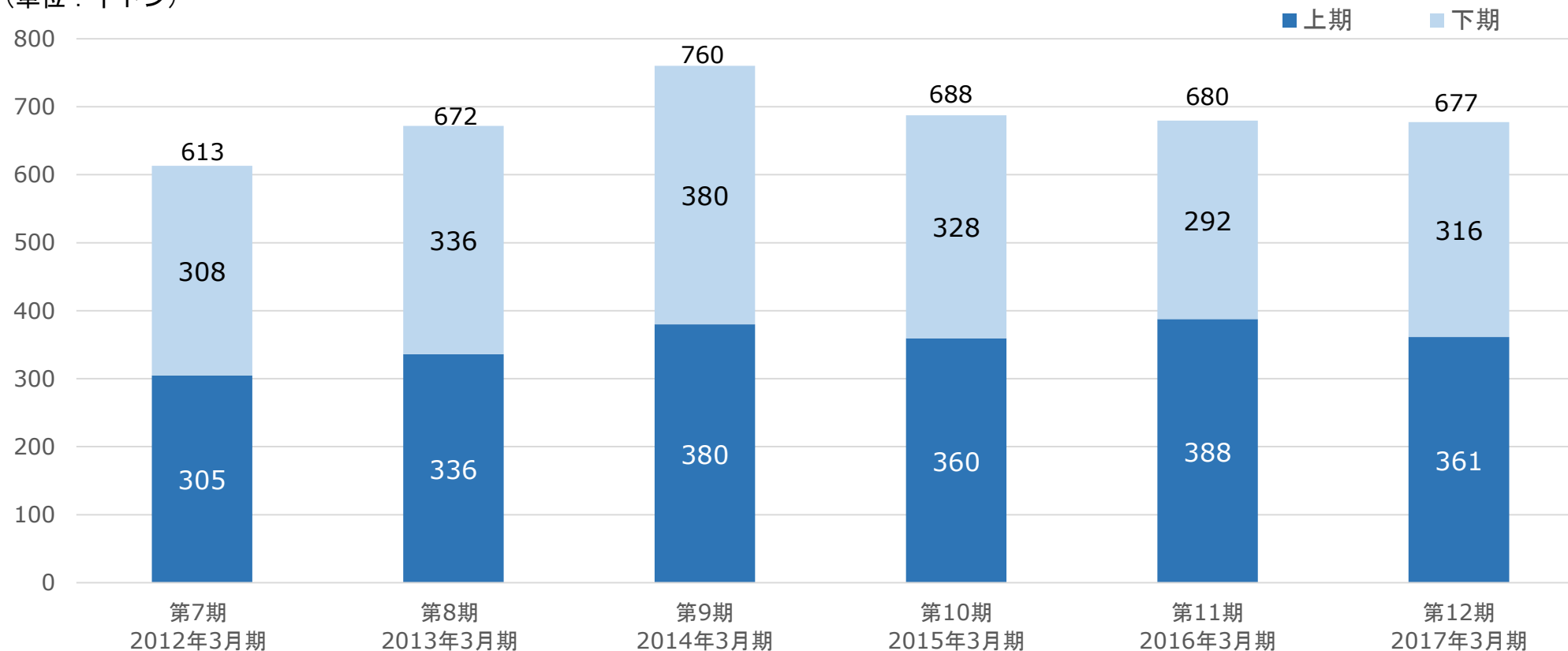
■2017年3月期は、前期比で▲0.9%減少。

Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイプ完工量(国内)



アジアパイルホールディングス株式会社

(単位：千トン)



■ 当社グループの国内完工量は、前期比で▲0.4%の減少。

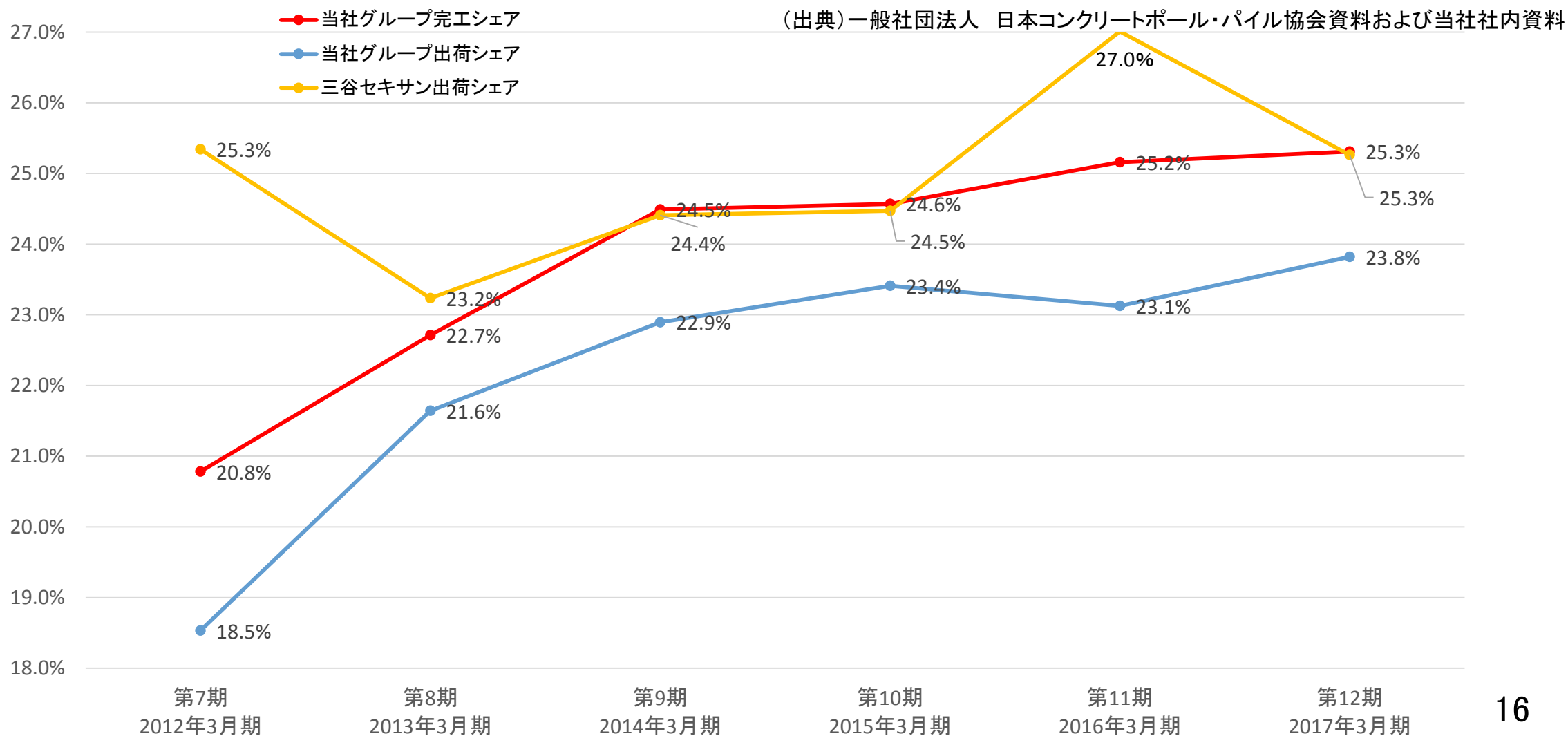
Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料および当社社内資料

		第7期 2012年3月期	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期
当社グループ	完工量(千t)	613	671	760	688	680	677
	シェア	20.8%	22.7%	24.5%	24.6%	25.2%	25.3%
	出荷量(千t)	547	640	711	655	625	637
	シェア	18.5%	21.6%	22.9%	23.4%	23.1%	23.8%
三谷セキサン	出荷量(千t)	748	687	758	685	730	676
	シェア	25.3%	23.2%	24.4%	24.5%	27.0%	25.3%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	276	270	242	240	217	213
	シェア	9.4%	9.1%	7.8%	8.6%	8.0%	8.0%
日本ヒューム	出荷量(千t)	251	223	270	251	251	249
	シェア	8.5%	7.5%	8.7%	9.0%	9.3%	9.3%
トーヨーアサノ	出荷量(千t)	201	176	196	197	159	170
	シェア	6.8%	5.9%	6.3%	7.1%	5.9%	6.3%
業界全体	出荷量(千t)	2,950	2,956	3,104	2,798	2,702	2,676
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ 完工量、出荷量ともシェアアップ。

Ⅱ-4 コンクリートパイルのシェア推移(国内)

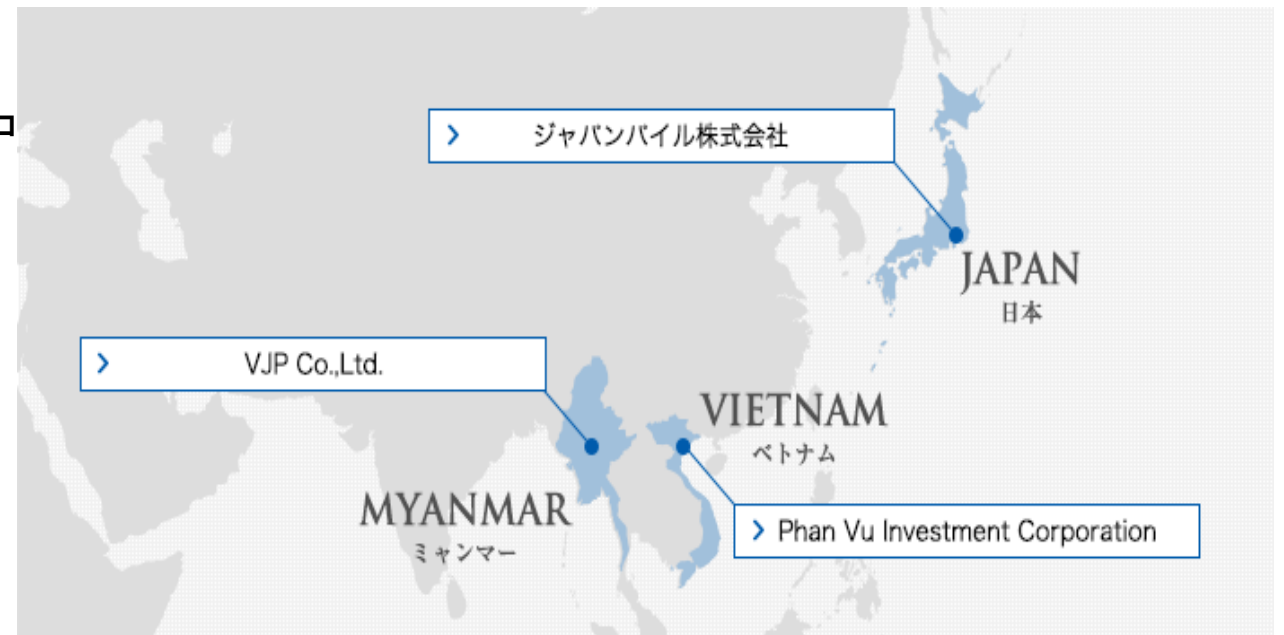




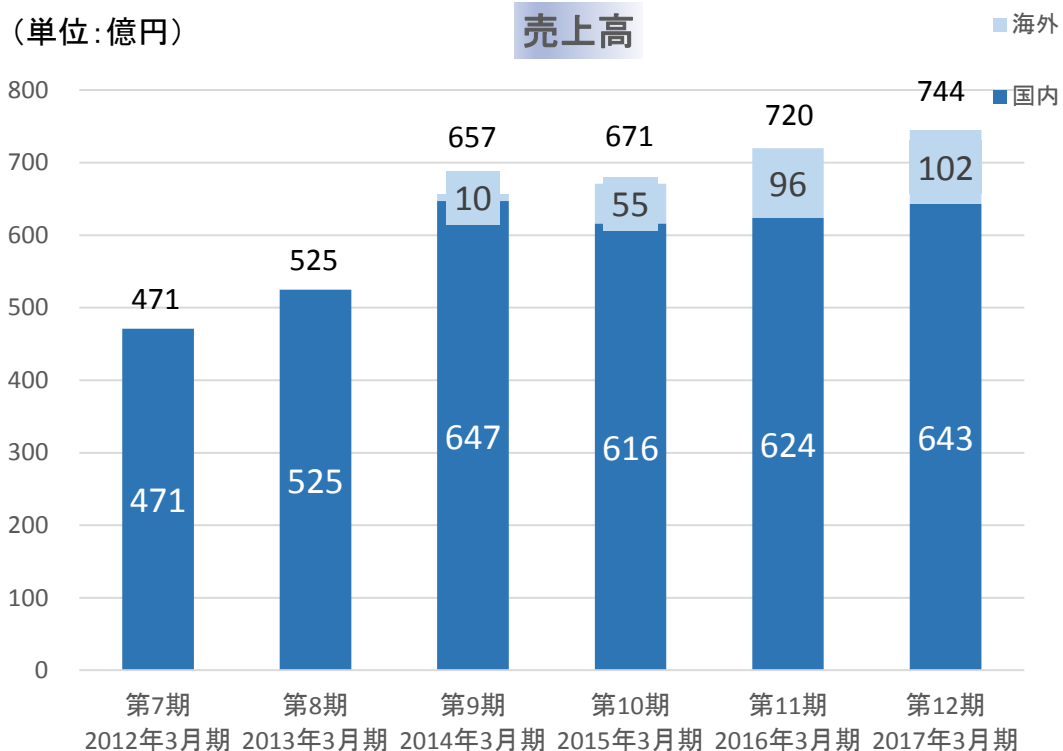
Ⅲ. 第12期(2017年3月期)決算概要(連結)

Ⅲ-1 事業の状況

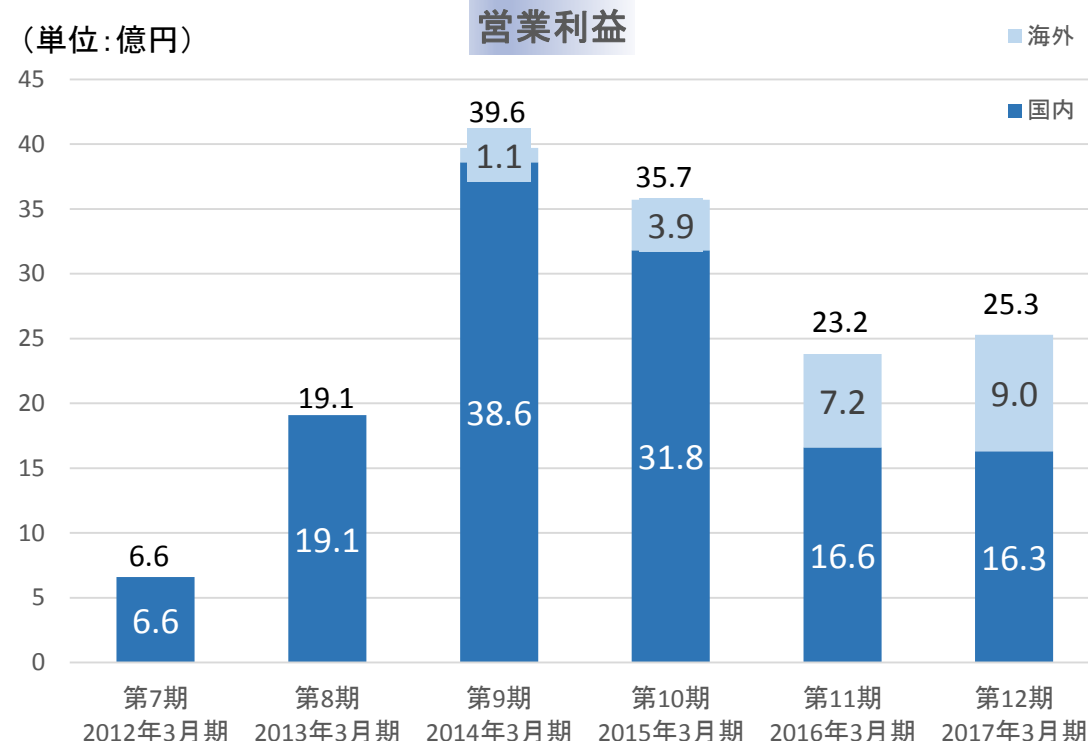
- 当社グループは、持株会社の当社の下、3社の事業会社(グループ)を各国に配置する構成
- 日本およびベトナムでは、基礎建設関連事業を展開中
- ミャンマーでは、事業開始に向け工場建設中



Ⅲ-2 連結売上高・営業利益推移



■ 売上高は前期比+3.3%の増収、国内・海外共に増収



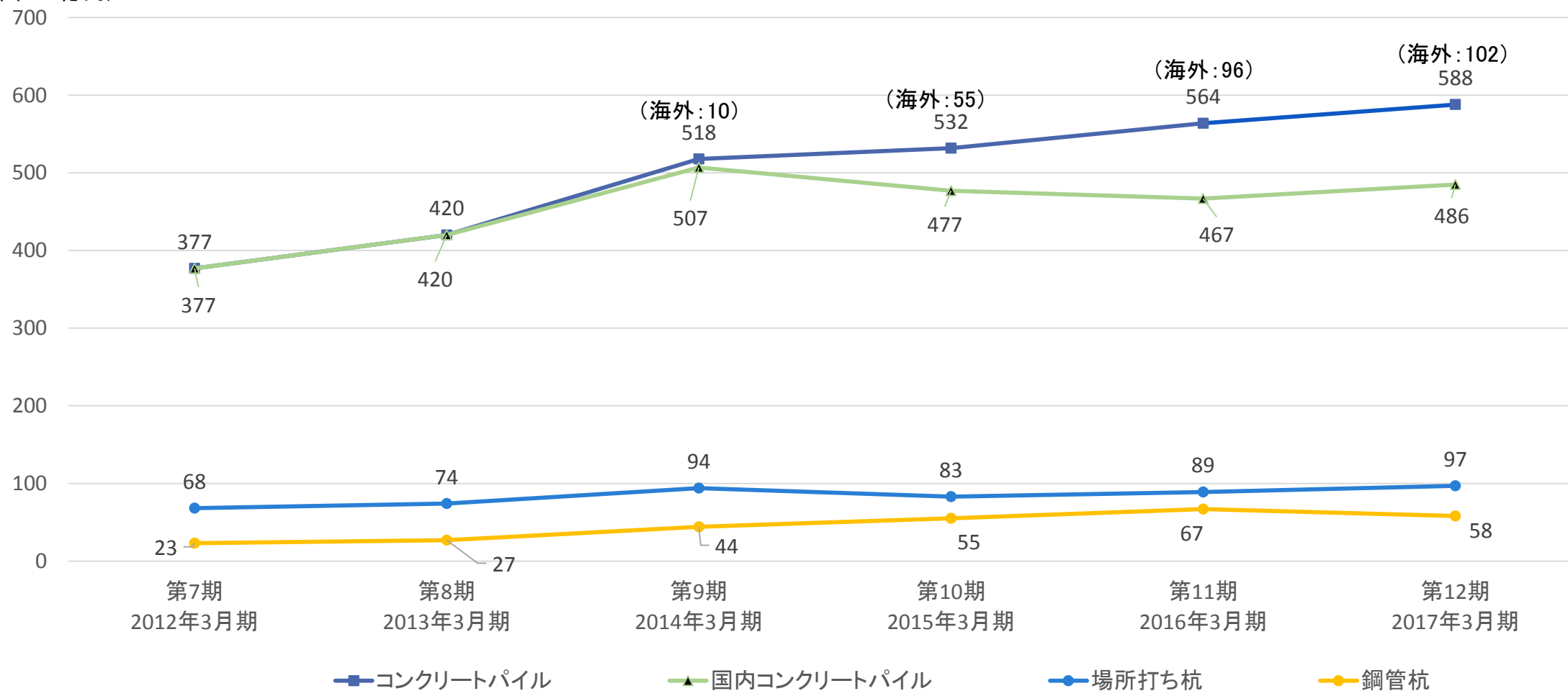
■ 営業利益は前期比+9.0%の増益

■ 国内は▲1.6%の減益、海外は+23.9%増益

(注) 売上高、営業利益の国内・海外内訳については連結調整前の数字を表示しております。

Ⅲ-3 部門別連結売上高推移

(単位：億円)



Ⅲ-4 連結損益計算書

	第7期 2012年3月期	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期	第13期 2018年3月期 (予想)
(単位:百万円)							
売上高	47,184	52,521	65,779	67,169	72,078	74,422	80,000
売上総利益	6,914	8,099	10,768	10,613	10,097	10,463	11,310
営業利益	660	1,914	3,964	3,573	2,324	2,534	3,000
経常利益	963	2,167	4,239	3,666	2,235	2,382	2,750
税金等調整前当期純利益	806	2,198	4,213	3,415	2,286	2,198	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,309	2,011	2,661	2,396	1,432	1,629	1,800
売上高総利益率	14.7%	15.4%	16.4%	15.8%	14.0%	14.1%	14.1%
自己資本当期純利益率	11.8%	15.1%	14.3%	10.2%	5.8%	6.3%	6.6%

Ⅲ-5 連結キャッシュ・フロー計算書

	第7期 2012年3月期	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期
(単位:百万円)						
税金等調整前当期純利益	806	2,198	4,213	3,415	2,286	2,198
減価償却費	947	897	1,068	1,514	1,861	2,059
売上債権の増減(△は増加額)	△1,014	△2,106	△2,276	291	953	△5,817
たな卸資産の増減(△は増加額)	290	△1,471	548	△834	△571	△1,102
仕入債務等の増減(△は減少額)	103	3,533	1,317	832	△2,024	3,371
その他	486	△89	△359	△969	△1,635	1,586
I. 営業活動によるキャッシュフロー	1,618	2,963	4,511	4,249	870	2,296
有形固定資産の増減	△67	△131	△1,214	△3,080	△3,529	△2,468
投資有価証券の取得	△480	△625	△135	△2	△33	△14
その他	△32	44	△95	△57	△339	△19
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△579	△712	△1,445	△3,140	△3,902	△2,502
借入金・社債の増減	△120	△2,280	△1,995	△988	3,289	360
配当金の支払	△127	△203	△435	△456	△502	△425
株式発行による収入	-	1,096	4,184	-	-	-
その他	△355	△467	271	△572	△116	△1,113
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△602	△1,854	2,025	△2,016	2,670	△1,177
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	6,067	6,463	11,564	10,741	10,301	8,759



アジアパイルホールディングス株式会社

IV. 経営概況

IV-1 経営概況

1. 前期の一般的な業務環境

(1) 景気の状態

(2) 業界の状態

IV-2 経営概況

2. 前期の当社業績の特徴

- (1) 政府・元請による工事管理厳格化の影響
- (2) 重機不足・人手不足の顕在化
- (3) 中小型物件の利益率の低下
- (4) 海外子会社の業績好調持続

IV-3 経営概況



アジアパイルホールディングス株式会社

3. 5ヶ年計画の準備期間の延長

IV-4 経営概況

4. 当社の基本的状況と今後

- (1) 受注状況は順調
- (2) 海外業績は今後も順調の見込み
- (3) 5ヶ年計画の達成を目指す



アジアパイルホールディングス株式会社

Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。